

## ○ 各科目の要点について

### 1 国語総合

- これまでの「国語総合」の内容を改善し、教科の目標を全面的に受け、総合的な言語能力を育成することをねらいとした共通必修科目である。目標に想像力を伸ばすことを新たに加えている。
- 小学校及び中学校と同様に、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項から内容を構成している。
- 話すこと・聞くことを主とする指導に15～25単位時間程度、書くことを主とする指導に30～40単位時間程度を配当し、表現する能力の育成を引き続き重視している。また、学習の過程を一層明確にするため、例えば、「B書くこと」では、題材を選ぶ、構成や展開を工夫する、的確に記述する、書いた文章を推敲したり交流したりするという指導事項を示している。
- 読むことの指導では、読む能力を育成するとともに、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うことに配慮している。読むことの指導のうち、古典と近代以降の文章との授業の割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めるようにしている。古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにしている。古典の教材には、古典に関連する近代以降の文章を含めることを明示している。
- 新たに置いた〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げることが示すとともに、従前、〔言語事項〕として示していた言葉のきまり、言葉の成り立ち、表現の特色、言語の役割、文や文章の組立て、語句、語彙、表記、漢字の読み書きに関することも取り上げている。
- 各領域において、実践的な指導の充実が図られるよう、話し合いや討論、発表をする、説明や意見の文章、随筆を書くなどの言語活動を例示している。

### 2 国語表現

- これまでの「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成し、国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育成することなどをねらいとした選択科目である。目標に、想像力を伸ばすことと、国語の向上を図る態度を育てることとを新たに加えている。
- 話すこと・聞くこと及び書くことを中心として内容を構成し、情報を基に自分の考えをまとめること、相手の立場や異なる考えを尊重して話し合うこと、論理の構成や描写の仕方を工夫すること、表現の効果を吟味したり文章を読み合ったり批評したりすることなどを重視している。
- 目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫すること、国語における言葉の成り立ち、表現の特色や言語の役割の理解を深めることなどを取り上げている。
- 討論する、解説や論文をまとめる、小説や実用的な文章を書くなどの言語活動を例示している。

### 3 現代文A

- 近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を

育成することをねらいとして、新たに置いた選択科目である。

- ・ 近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読むことを通して探究する指導事項を設けている。
- ・ 外国の文化との関係なども視野に入れて文章の内容や表現の特色を調べる、文章を読み比べて話し合ったり批評したりするなどの言語活動を例示している。
- ・ 教材は、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として取り上げることとしている。

#### 4 現代文B

- ・ これまでの「現代文」の内容を改善し、近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図る態度や人生を豊かにする態度を育成するなど、読むことを中心としつつも総合的な言語能力を育成することをねらいとした選択科目である。目標に、適切に表現する能力を高めることと、国語の向上を図る態度を育てることを新たに加えている。
- ・ 文章を批評することを通して考えを深め、発展させること、目的や課題に応じて情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することなどを重視している。
- ・ 文章を読んで、人物の生き方や表現の仕方について話し合う、課題について調べたことを報告書や論文集に編集するなどの言語活動を例示している。
- ・ 教材は、論理的な文章や文学的な文章をはじめ、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げることとしている。

#### 5 古典A

- ・ これまでの「古典講読」の内容を改善し、古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成することをねらいとした選択科目である。
- ・ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究する指導事項を設けている。
- ・ 音読、朗読、暗唱をする、古典を読み比べて話し合うなどの言語活動を例示し、古典に触れる楽しさを味わえるようにしている。
- ・ 古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができるようにしている。
- ・ 教材は、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げるようにし、古典に関連する近代以降の文章を含めることとしている。

#### 6 古典B

- ・ これまでの「古典」の内容を改善し、古典としての古文と漢文を読む能力を育成するとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることをねらいとした選択科目である。
- ・ 古典を読んで思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること、古典を読み味わい作品の価値について考察することなどを重視している。
- ・ 古典を読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること、課題について調べたことを発表したり文章にまとめたりすることなどの言語活動を例示している。
- ・ 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにしている。
- ・ 教材は、言語文化の変遷についての理解に資するものを取り上げることとし、必要に応じて古典についての評論文などを用いることができるようにしている。

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

国語総合	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項〕
国語表現	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)		(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
現代文A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
現代文B	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
古典A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
古典B			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)

(太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。)